

会 議 録

1 会議名

平成29年度第10回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

1) 協 議（公開）

- (1) 地域活動支援事業活動報告会について
- (2) 平成30年度地域活動支援事業（安塚区）について
- (3) 地域の課題の検討について
- (4) 安塚区地域協議会としての審議内容について

2) 報 告（公開）

- (1) 安塚区内の積雪状況等について
- (2) 上越市大学ラグビー招待試合について
- (3) 国道253号の不通における代替確保のための広域農道の除雪対応の変更
について

3) その他（公開）

3 開催日時

平成30年2月19日（月）午後6時30分から午後8時25分まで

4 開催場所

安塚区総合事務所3階301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委 員：池田嘉久、石田ひとみ、數井憲一、國保信夫、小松光代、中島勝義
中村真二、長谷川直樹、秦克博、松苗正二、松野等、山岸重正
- ・浦川原区総合事務所：小林建設グループ長
- ・事務局：安塚区総合事務所 山崎所長、市川次長、横尾市民生活・福祉グループ長

8 発言の内容（要旨）

【市川次長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 会議録の確認：數井憲一会長

【數井憲一会長】

- ・ 挨拶
協議事項（1）地域活動支援事業活動報告会について、説明を事務局に求める。

【高島主事】

資料No. 1-1の「平成29年度地域活動支援事業活動報告会 次第」を御覧いただきたい。活動報告会については、前回の会議で日程や進行役等を決めていただいたので、当日は、次第にあるとおりに進めていただきたい。1団体の持ち時間は、おおむね説明5分間、質疑5分間の計10分間とし、報告の順番は、提案書の提出順としている。各団体の活動報告の後は、事務局から来年度の地域活動支援事業の概要や事前相談等について説明する。

続いて、当日の会場レイアウト図（案）を作成したので、資料No. 1-2を御覧いただきたい。報告団体がスクリーンを使用する場合は、左前方で発表していただき、スクリーンを使用しない場合は、正面で発表していただく予定である。会長、副会長と進行役の小松委員は、右前方の席を予定している。活動報告会が、地域活動支援事業の周知を目的としていることから、前方の席は一般参加者の席とし、ほかの協議会委員の皆さんについては、後方の席ということ考えている。この場合、もし、参加者が少ない場合は、委員の皆さんから前に詰めていただきたいと思う。この後、皆さんで協議していただき、改善箇所等あれば、御意見いただきたい。

【數井憲一会長】

まず、資料No. 1-1の「平成29年度地域活動支援事業活動報告会 次第」についてだが、何か意見等あるか。（「なし」の声あり）

活動報告会は、資料No. 1-1のとおりとしてよいか。（「よい」の声あり）

当日は、一般の参加者から質問等はないと思うので、委員の皆さんから積極的に発言していただきたい。

続いて、資料N o. 1－2の会場レイアウトについてだが、事務局案のとおりでよいか。（「はい」の声あり）

それでは、協議事項（1）地域活動支援事業活動報告会については以上とする。

続いて、協議事項（2）平成30年度地域活動支援事業（安塚区）について、事務局に説明を求める。

【高島主事】

資料N o. 2を御覧いただきたい。前回の協議をもとに平成30年度の募集要項（案）を作成した。採択方針、審査方法等は、昨年と同様のため、内容自体はそれほど変わらないが、皆さんで内容の確認及び協議をお願いします。今日、決定した内容で4月1日に全戸配布する予定である。

【數井憲一会長】

来年度の地域活動支援事業については、これまで協議を重ねてきたので、大きな変更点はないと思う。来年度の募集要項については、資料N o. 2のとおりとしてよいか。

（「よい」の声あり）

それでは、協議事項（2）平成30年度地域活動支援事業（安塚区）については以上とする。

続いて、協議事項（3）地域の課題の検討について、事務局に説明を求める。

【高島主事】

昨年、「地域活動を行う上での人員不足について」をテーマに、町内会長等と行った意見交換会で出た課題をもとに2つの分科会に分かれて、安塚区地域協議会として協議すべき内容を議論していただいた。この後、地域協議会として協議すべき内容について、資料に沿って協議を進めていただきたい。

まず、資料N o. 3－1を御覧いただきたい。「1 分科会の実施状況について」は、各分科会の実施日等を記載してある。なお、各分科会については、こちらで便宜的に、実施日順で松苗委員が分科会長を務める会を分科会（A）、池田委員が分科会長を務める会を分科会（B）とさせていただいた。続いて、「2 各分科会で出た意見について」だが、資料N o. 3－2に、Aグループ、Bグループの両分科会で共通して出た意見、Aグルー

プで出た意見、Bグループで出た意見の順に、項目ごとにまとめてあるので、協議の参考としていただきたい。次に、「3 各分科会で協議した結果」については、分科会ごとに、今後、地域協議会として議論を進めていくべきものについてまとめていただいたものを記載している。詳細は、この後、各分科会長から報告していただく。次に、「4 安塚区地域協議会として協議すべき内容について」である。ここでは、各分科会の協議結果を受けて、今後、実際に安塚区地域協議会として協議していく内容について検討していただく。当初、今回の地域協議会で、地域協議会として協議していく内容を決定する予定であったが、分科会で出た意見も多岐にわたり、安塚区として重要な課題でもあることから、地域協議会としての意見や提案としてまとめるには時間がかかると思われるので、今後、十分な協議をしていただければと思う。最後に、裏面の「5 今後の予定」についてである。各分科会開催時に同じものを配布したが、改めて、今後のおおまかな流れについて説明させていただく。今日、各分科会で整理した内容をもとに地域協議会として、今後協議していく内容について検討していただく。もし、協議した結果、自主的審議を開始しないとなった場合は、そのほかの課題の洗い出しに向けて、意見交換会の開催や情報収集をしていただくこととなる。地域協議会として協議していく内容が決定し、自主的審議を開始するとなった場合は、今後、ほかの地域の事例等見ながら、その課題の解決のための手段、方法等を検討していただくこととなる。そして、地域協議会としての解決策をまとめ、最終的には町内会、NPO雪のふるさと安塚といった実施主体に対して、意見交換会などをおして、解決策を提示していただきたいと考えている。なお、自主的審議事項は、市長に意見書を提出するだけでなく、地域の皆さんに提案することもできるので、このことも意識しながら進めていただければと思う。今後の具体的な協議の進め方などについては、地域協議会として協議していく内容が決定次第、正副会長と事務局で協議し、皆さんにお示ししたい。

【數井憲一会長】

前回の会議で各分科会の活動状況を報告していただいたが、今日は、協議結果について報告していただく。まず、分科会（A）から願います。

【松苗正二委員】

- ・資料No. 3-2に沿って、分科会（A）で出た意見を説明

分科会（A）では、今紹介したように、ボランティアに関することから集落の体制に関

することまで幅広く意見が出た。

その中で、安塚区においても精力的に活動している集落があるが、その集落だけでは、活動の幅を広げていくのは難しいため、私たちは、そういった集落をどのように支援できるのかを中心に協議してきた。特に、その支援の1つとして、ホームページやSNSをとおして情報発信をすることで、各集落の活動を支援することができないか協議してきたが、分科会（A）では、今後、地域協議会として、活力がある集落から支援の希望があれば、全面的に支援できる体制づくりを目指す方向性で議論していきたいということで話がまとまった。

【數井憲一会長】

次に、分科会（B）に報告をお願いします。

【池田嘉久委員】

私たちの分科会では、人員不足の対策としてボランティアを募集するものの、なかなか集まらないという状況があるので、ボランティアの募集について掘り下げ考えてみた。協議した中では、各集落や各団体等の活動を、いつ、どこで、ボランティアがどういった役割で、何人必要なのかをカレンダーに具体的にまとめて情報を発信することが重要であると意見がまとまった。

また、ボランティアの募集先としては、集落から区外へ転出した人への協力依頼が有効ではないかと意見があった。いろいろなしがらみがあって転出した人もいないかもしれないが、集落を出て何年か経ち、故郷の活動に協力したいと思っている人もいないかもしれない。加えて、集落で暮らしていた人は、集落の活動に対しての理解や経験があるため、集落出身者に情報発信をしていくのがよいという方向でまとまった。

【數井憲一会長】

昨年から、当協議会では地域の課題について協議をはじめ、町内会長等と意見交換会をする中で、改めて地域活動における人員不足が地域の課題であることを認識することができた。その課題に対して、どういった方法で地域を活性化していくのかを両分科会で活発に協議していただき、様々な意見が出たと思う。

先ほど事務局から説明があったが、今後の予定については、分科会で出た意見を整理し、当協議会の自主的審議事項とするか、しないかを決定していく。このことに関して何か意見等あるか。（意見なし）

これまで、町内会長等との意見交換会や分科会において、地域の課題について協議してきた。地域活動における人員不足について、自主的審議を開始するということがよいか。（「はい」の声あり）

それでは、地域活動を行う上での人員不足について自主的審議を開始することとする。

分科会で地域の課題解決のための様々な手段や方法等を検討していただいたが、その意見等は資料No. 3-2にまとめてある。その中で、AグループとBグループの両分科会で共通して出た意見があるので、これを中心に検討していきたい。両分科会で共通して出た意見を中心に検討していく中で、関連する各分科会で出た意見も重ねて協議していきたい。

また、当初は、今年の秋頃までに地域協議会としての意見をまとめて、町内会や自治会といった実行部隊に地域協議会としての解決策案を提示したいと考えていたが、重要な課題であるため、特に期限を決めずにじっくりと協議していきたい。

それでは、協議に入る。両分科会で共通して「集落内の取組に関すること」、「ボランティアに関すること」「他団体との連携に関すること」の3つの項目について意見が出ている。まず、「集落内の取組に関すること」から協議する。1つ目に、「地域活動（イベント）は、各集落それぞれが創意工夫（規模の縮小等）し、できる範囲で取り組むべきではないか。」という意見があるが、この意見について何かあるか。（意見なし）

昨年の町内会長等との意見交換会で、直峰町内会が春のイベントについて、高齢な方からはやめたいという意見が出ているが、若い人からは縮小してでも続けていくべきだと意見があると発言していた。現在、地域で活動しているのは、60から70代が中心である。若い人は、仕事で地域の活動に参加ができない場合が多く、加えて、集落の人間の絶対数も少ない。人が足りない部分をボランティアで補うという手もあるが、希望した人数が集まらない場合もあり、ボランティアに頼ってなんとかするというのは難しいと考える。地域ができる範囲で取り組むべきとあるが、まさしくそのとおりだと思う。

何か意見等あるか。（意見なし）

今後、議論していく上で、不足等あれば、補う形でよいか。（「はい」の声あり）

2つ目に「地域活動の維持のためには、地域を引っ張る主導者が必要である」という意見がある。安塚区だけではないと思うが、強い主導者がいる地域は、活発に活動している。

【松野等委員】

確かに、集落を引っ張ってくれる主導者は必要である。

【數井憲一会長】

掘り下げて考えれば、主導者を育てるためにはどうしたらよいかという議論も出てくると思う。また話し合いの中で意見が出れば、協議したい。

【數井憲一会長】

次に、地域活動を継続するに当たり、ボランティアが必要であるという意見があるが、ボランティアはなかなか集まらないといった課題も出ている。

やはり、ボランティアの楽しみとして、地元住民とボランティアとの交流会は実施した方がよいのか。

【松野等委員】

ボランティアにとっても交流会のような楽しみが必要だと考える。

【數井憲一会長】

地元住民とボランティアが交流する機会があれば、関係も深まり、次の活動につながる場合もあるのでよいことだと思うが、交流会の準備が地元住民にとって負担であるという意見もある。

【池田嘉久委員】

どこの集落も高齢化が進んでいるため、イベントに関しては、事前準備やイベント従事後に交流会があると、交流会の準備が住民にとって負担になってしまう。

【數井憲一会長】

では、交流会を実施しないとしたら、ほかにボランティアにとってどういった楽しみがあるのか。先ほどの分科会（A）の説明にもあったが、ボランティアにキューピットバレイスキー場の割引券、地元の山菜やお米をお土産に渡すというのも1つの方法ではないか。

【長谷川直樹委員】

私たちの町内会の春まつりでは、御神輿の担ぎ手が不足しているため、町内会長が区内の事業所をまわって協力を依頼している。まつりの後に慰労会を実施しているが、協力してくれる人は、区外から車で来ている人が多いため、参加せずに帰る人が多い。御

神輿の道中では、各所で地元住民がお酒やおつまみを出しているのですが、それもまた楽しみの要素ではあると思うが、慰労会ほど関係が深まらないため、来年につながるとは考えにくい。

【數井憲一会長】

協力してくれた人にお土産は渡しているのか。

【長谷川直樹委員】

本当は少しでも何か渡せたらよいと思うが、特に用意はしていない。

【數井憲一会長】

資料に、地元住民とボランティアがお互いに楽しむことが大事とあるが、私もそのとおりだと思う。お土産を物で用意しなくても、活動を楽しんだことがお土産となるのではないか。

今年、伏野集落のそばまつりには、多くのボランティアが集まったが、イベント中ほどのような感じだったか。

【池田嘉久委員】

上越信用金庫、市の労働組合や民間企業の人たちからボランティアに来てもらった。当日は、安塚区総合事務所の集落づくり推進員が中心となってボランティアの段取りをしてくれたため、イベントは円滑に進んだ。そばまつりでは、お客さんがいなくなれば、ボランティアを返してしまうので、一緒に片付けをしながら、もう少し交流できたらよいと思った。

【山岸重正副会長】

お土産を渡すなどボランティアにも見返りが必要だという話をしているが、本来、ボランティアとは無償で活動する人であるため、ボランティア自身は、何も求めているのではないか。何かを渡したからといって、毎年協力に来てくれるとは限らないと思う。むしろ、何も渡さないことが、ボランティアに対しての本当の礼儀かもしれない。こちらが募集しなくてもボランティアが参加したくなるものをつくっていかなければならない。

【長谷川直樹委員】

今週末に、灯の回廊が開催されるため、現在、各集落で準備に取りかかっている。細

野町内会は、当日、高崎経済大学の学生が協力に来るが、それまでは、私より年上の70代の方が中心となって準備をする。このように、今頑張っている人たちは、60、70代の方が中心であるが、その後を引き継ぐ人たちがいないため、10年後は現状を維持できていない状況である。しかし、集落によっては人がいないわけではなく、今頑張っている人たちが次の人たちに引き継ぐ体制ができてない。現状を維持するためにも、次の世代に引き継ぐ体制を構築する必要がある。

【松野等委員】

確かに、ボランティアは見返りを求めないものだが、私は、ボランティアにも楽しみがないと長続きはしないのではないかと考える。その楽しみとは、物をもらえるということだけではなく、人と人とのつながりや付き合いから得るものもあるのではないか。

ボランティアにとっての楽しみは、画一ではなくてよいと思う。地域の特性を生かし、集落ごとに創意工夫して、お土産を渡す集落、ボランティアとの交流会を実施する集落などいろいろな形があると思うので、それをまた考えていったらよいのではないか。

【數井憲一会長】

ひとくくりにボランティアといっても、ボランティアは無償で行うものであるから、見返りは必要ないという意見もあれば、交流会の実施や簡単なお土産を渡すといったボランティアにとっても楽しみが必要だという意見もある。いずれも、ボランティアとの関わり方は様々であり、どういった関わり方をするのかは、その地域の特性や人によって異なる。この場でもこれが最もよい方法だと結論は出ない。どういった方法があるかは、今後検討し、様々な方法を地域に提示するという事で意見をまとめていきたい。

関連して、ボランティアを募集するには、情報発信が必要となるが、どういった募集方法があるか。資料に、情報発信をする際は、できるだけ情報を明確にした方がよいという意見があるが、情報発信について参考に市川次長の考えをお聞きしたい。

【市川次長】

受入側がボランティアに求める内容をしっかりと発信し、ボランティア側も自分がしたいことに参加できることが望ましいため、発信する情報はできるだけ明確にした方がよいと思う。また、基本的にボランティアは見返りを求めていないが、ふるさと納税と一緒に、場合によっては手段の1つとしてボランティアを引き付けるものはあってもよい

と考える。無料で何かを提供することはしなくてよいと思うが、例えば、格安でお米を提供するなど、それぞれの地域の魅力を発揮されたらよいと考える。

【數井憲一会長】

受入側が、求めていることをしっかりと伝えることが大事である。

では、どうやって情報発信をしていくか。資料には、ホームページやSNS等で情報を発信していくことが有効とあり、また、より効果的に情報を発信するため、安塚区としてのホームページを立ち上げたらどうかという意見がある。ホームページを立ち上げる場合、どこが主体となって立ち上げるのかという問題があるが、市で立ち上げるというのは難しいだろう。

【松野等委員】

安塚区全体を対象としたホームページであれば、やはり、NPO雪のふるさと安塚に主体となって取り組んでいただくのがよいのではないかと。

【數井憲一会長】

集落の情報を発信するとなれば、定期的に情報を発信する人も必要となるため、集落ごとにホームページを立ち上げるのも難しいだろう。NPO雪のふるさと安塚に、安塚区全体の情報発信を依頼するという意見が出たが、いかがか。

【長谷川直樹委員】

ホームページを新しく立ち上げるとなると、費用がかかり、事務的にも大変である。また、資料にもあるが、ホームページをせっかく立ち上げて発信する情報量が少ないため、見る人は少ないかもしれない。NPO雪のふるさと安塚の既存のホームページを活用させていただけないか依頼するのも1つの手ではないか。また、NPO雪のふるさと安塚のホームページに集落情報を掲載できるとなった場合、市の広報上越にNPO雪のふるさと安塚のホームページについて載せられないか。

【小松光代委員】

市の広報上越には、共催事業か後援事業でないと掲載できない。

新しいホームページを立ち上げるとなると、誰が管理するのかが問題となってくるので、私も既存のものを活用すればよいと思う。また、NPO雪のふるさと安塚の広報誌もあるので、そこに細かい地域の情報を入れてもらうなどすればよいのではないかと。

か違う団体が力を付けてくれば、独自の何か別のものを作ってもらえばよいと思うが、現時点では、NPO雪のふるさと安塚に依頼するのが最もよいのではないかと。

【數井憲一会長】

私も、今安塚区として何かを発信するとしたら、NPO雪のふるさと安塚から発信してもらうことが1番よいのではないかと思う。

【松野等委員】

地域活性化のための組織なので、NPO雪のふるさと安塚に集落情報の発信を依頼する方向で検討していけばよいのではないかと。

【數井憲一会長】

では、ボランティアの募集については、今後、募集内容を明確にして発信すること及びNPO雪のふるさと安塚を中心に情報発信することを中心に検討していきたい。

話が戻ってしまうが、地域で交流会を実施する場合、料理の準備等があるため、女性の負担が大きくなってしまうものか。

【池田嘉久委員】

交流会では、全て地元の手作り料理を出しているが、前もって準備をしておけば、そこまで負担にはならないと思う。

【數井憲一会長】

私の集落でも、地域外の人との交流会では、なるべく各家庭の料理を出しているが、地元住民も楽しんで料理を作っている。やはり、それぞれが楽しむことが1番大切なことだと思う。

次に、縁故関係にボランティアを依頼するという意見についてはいかがか。

【池田嘉久委員】

分科会の時に、地域によっては事情があり、縁故関係にボランティアを依頼しても、なかなか協力に来てくれないという話もあったが、何年か経って地元の活動に協力したいと思う人もいないのではないかとということで、縁故関係の人への情報発信は有効ではないかとなった。

【中島勝義委員】

市内に私の集落から転出した人の集まりがあるらしいが、その集まりを楽しみにして

いるのは、60代以上の人であるという。当然、市内には若い集落出身者もいるが、その集まりに加わって活動してはいない。故郷を恋しがるのは、若い人ではなく、60代以上の人であるため、若い人が大勢協力に来てくれると期待しない方がよい。

【山岸重正副会長】

そうであったとしても、情報発信しなければ何も変わらない。

【數井憲一会長】

かえって、都心部など遠くに住んでいる安塚区に関係のない人の方が協力に来てくれるのかもしれない。

【長谷川直樹委員】

大学に協力依頼をすれば、学習の一環として、学生が協力に来てくれるのではないか。

【數井憲一会長】

大学の話が出たが、昨年、町内会の視察研修で訪れた柏崎市の荻ノ島集落は、大学生と1つのイベントだけでなく、年間を通して交流があるということであった。松苗委員も一緒に視察研修に参加していたが、どう思ったか。

【松苗正二委員】

視察研修で話を聞いたが、大学生は、何かのイベントがあるから来るのではなく、自分の第2の故郷のように自由に集落を行き来しているようであった。地域のイベントに対して魅力を感じてもらうことも大事なことであるが、その地域自体に対して魅力を感じてもらわなければならないと感じた。

【數井憲一会長】

國保委員の集落は、何世帯か移住者がいる集落であったと思うが、どのようにして地域活動を行っているのか。

【國保信夫委員】

私の集落では、集落全員が地域活動に参加しているので、ボランティアを必要としていない。町内会長を2年制としており、多くの人が町内会長を経験していることも、この協力体制を築けている要因ではないかと思う。

【松苗正二委員】

集落の人たちだけで頑張っていて、ボランティアを必要としない集落はそれでよ

いが、安塚区の現状としては、今後、今の状態を維持していくことが難しくなっていく状況である。今の状態を維持していくためには、ボランティアを受け入れて、ボランティアと親密になり、柏崎市荻ノ島集落のように新しい人に入って来てもらうような形を目指すことが大事である。そのためには、ボランティアを仲間として受け入れて、親密になることが大切だと思う。

【數井憲一会長】

私たちは、ボランティアを受け入れる側の立場で話をしているが、ボランティアに行く側の意見はどうなのか。

以前、私の集落では、農作業に従事する人が足りなかったため、NPO雪のふるさと安塚が事務局をしている農業振興会に依頼をし、数人派遣してもらったことがあるが、その中に、國保委員がいた。ほかの地域の活動に協力する立場の意見として國保委員に話を聞きたい。

【國保信夫委員】

農業振興会という受け皿があったから、協力に行くことができた。何か協力したいと思っても、その要望を取りまとめてくれる場所がなければ、そういった活動に参加するのは難しい。

【中島勝義委員】

ボランティアの性質が違うかもしれないが、中越地震の時、元の安塚町役場から依頼されて、当時の高沢、二本木、信濃坂、須川自治会長の4人で災害ボランティアに参加した。現場では、指示に従って、午前中は避難所の障子の張替作業をし、午後は各個人宅の植木の冬囲いをした。ボランティアが必要ということで派遣されたが、災害の時に植木の冬囲いをする必要があるのかと思った。

【數井憲一会長】

災害ボランティアは、災害が起きてすぐ来てほしいものである。

ナホトカ号の油流水事故の時は、ボランティアを要請したのか。それとも、自主的にボランティアが来たのか。

【山崎所長】

災害ボランティアの窓口は社会福祉協議会であるため、詳細は分からないが、市の職

員もボランティアに参加していた。

【數井憲一会長】

本当は、ボランティアが自発的に来てくれるとよいのだが、やはり、ボランティアが必要であれば、情報発信をしなければならない。

【山岸重正副会長】

普通のボランティアと災害ボランティアは違う。

【長谷川直樹委員】

災害であれば、マスコミが大々的に報道するため、人は集まるが、集落行事はそういう訳にはいかない。

【市川次長】

いずれにせよ、この地域で受け皿を確立しなければならないと思う。町内会でボランティアを募集したとしても誰をどこに配置するのか等を取りまとめて段取りする人が必要である。

【數井憲一会長】

そのとおりだと思う。人任せの意見となってしまうが、音頭を取る人が必要である。そして、地域としての受け入れ態勢も整えなければならない。

昨年、朴の木自治会の柵田カフェには、小学生と中学生が参加していたが、ボランティアとして参加していたのか。

【中村真二委員】

小、中学生が柵田カフェに関わるようになった経緯は分からないが、小学生は地域の学習の一環として、柵田カフェだけでなく、柳葉ひまわりの植栽から協力していた。

【松苗正二委員】

朴の木集落と小学生がより深く関わろうということで、今日、朴の木集落が小学校を訪れて、そば打ち体験を実施した。そば打ち体験には安塚区総合事務所の集落づくり推進員も参加していたが、行政が主導しているのか。

【山崎所長】

行政主導ではない。ボランティアというわけでもなく、学校の授業の一環として、朴の木集落と学校が関わっている。この関係性は、担任の先生の考え方にもよるので、不安定な関係性だと感じている。

朴の木集落は、平成27年度から休耕田に柳葉ひまわりを植栽する活動をしている。柳葉ひまわりの植栽や棚田カフェのボランティアを募集しているが、年によっては、1人もボランティアが集まらないという状況がある。

【數井憲一会長】

朴の木集落は、子どもがいないので小学生が手伝いに来てくれて集落は非常に喜んでいると聞いた。また、学校の先生からは、今は核家族が多く、子どもたちもおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に活動することができて大変喜んでいると聞いた。こういった違う角度から見ること大切だと思う。

【國保信夫委員】

資料の「地域活動（イベント）は、各集落それぞれが創意工夫（規模の縮小等）し、できる範囲で取り組むべきではないか。」という意見が結論ではないか。ボランティアを募集するといっても非常に難しい問題である。

【數井憲一会長】

確かに、各集落で取り組むべき問題ではあるが、今、実際に人手が足りなくて困っている集落はどうしたらよいかということを経験協議会として議論している。

【國保信夫委員】

農業の話をする、農業従事者が不足すれば、協力者を募るが、その協力者も見つからないとなれば、農業をやめるしかない。安塚区の人口は、町時代は約1万人いたが、今では2千人を割る状況である。こういった現状の中で、今の状況を維持するために、ボランティアを募ってなんとか頑張っているが、ボランティアも来てくれなくなれば、自然消滅するしかない。分科会でもたくさんの意見が出て素晴らしいことではあるが、やはり社会の大きな流れには逆らえないと感じてしまう。

【松野等委員】

結論から言えばそうだが、少しでも今の状況を前進、改善させたいということで協議している。數井会長が言ったとおり、人員が足りているところはよいが、不足しているところは、どういった支援が必要かといったことを議論していかなければならないと思う。

【數井憲一会長】

この地域活動における人員不足という問題については、結論は出ないと思う。いろいろ

ろと項目を挙げて、地域にあったやり方を実践してもらえればと考えている。

今日はボランティアについて協議してきたが、大きくまとめると、次のとおりである。

- ・ボランティアと地元住民がお互いに楽しむことが重要であること
- ・1つの活動だけではなく、ボランティアと継続した関係性を築くこと
- ・ボランティアを募集する際は、情報を明確にして発信すること
- ・NPO雪のふるさと安塚を中心とした情報発信を目指すこと

次回までに今日出た意見をまとめて、またじっくりと協議していきたい。

【山岸重正副会長】

先ほど自主的審議を開始するということが決定したので、この課題に対して委員の皆さんの考えを聞く必要があると感じている。そこまで深く考えなくてよいが、文書で意見をまとめてもらった方が、それぞれの意見も分かりやすくなり、議論が活発に進むのではないか。

【數井憲一会長】

次回の会議までに自分の考えを文書でまとめてくるという意見があったが、秦委員いかがか。

【秦克博委員】

まとめてきてもよいと思う。

【山岸重正副会長】

文書にまとめるといっても、あくまで、委員全員の考えを聞きたいだけなので、簡単なものでよい。

【長谷川直樹委員】

文書でなくても、今日の内容をそれぞれまとめて、次回会議で発表してもらえばよいのではないか。

【山岸重正副会長】

それでもよい。

【數井憲一会長】

それでは、それぞれ考えをまとめたものを次回報告していただき、検討していきたい。

協議事項（3）地域の課題の検討については、以上とする。

続いて、協議事項（4）安塚区地域協議会としての審議内容について、事前の提出があ

ったか事務局に確認する。

【市川次長】

事前の提出はない。

【數井憲一会長】

この場でもよいが、委員の提案等を求める。（「なし」の声あり）

続いて、4の報告事項について、何かあるか。

【山崎所長】

次第には載っていないが、3点報告させていただく。

- ・安塚区内の積雪状況等について
- ・上越市大学ラグビー招待試合について
- ・国道253号の不通における代替確保のための広域農道の除雪対応の変更について

【數井憲一会長】

何か意見等あるか。（「なし」の声あり）

続いて、5のその他だが、何か意見等あるか。（「なし」の声あり）

- ・次回地域協議会開催日（3月20日）を確認
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-592-2003（内線23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。